

No.263

2022年  
8月号

# さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館  
〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

## 展示のご案内

展示期間 8月25日(木)まで

★メイン展示

### 『夏休みに読んでもらいたい本』

蝉の大合唱が聞こえてくるこの頃。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回の展示は、

- ・小学校1～3年生向け
- ・小学校4～6年生向け
- ・中学生、高校生向け

という3つのコーナーを用意しました。



●メイン展示図書(抜粋)

「モンスター・ホテルでなつやすみ」「キリンちゃん」  
「十五少年漂流記」「魔女の宅急便」「ワンダー」  
「なぜぼくらは働くのか」「平家物語」「まなの本棚」

★サブ展示

### 『観察・実験・工作・自由研究・自主学习』

今回のサブ展示は2つ。夏休みの宿題の進み具合はどうか。役に立ちそうな色々な本を集めてみました。

●サブ展示図書(抜粋)

「おうちでできるオモシロ実験!」「キッチン実験室」  
「新聞紙とガムテープでつくって遊ぼう」

★サブ展示

### 『戦争と平和を考える』

沖縄の本土復帰から50年、終戦から77年となります。実体験した方々がご高齢になる中、本を通して現実起きた出来事を学んでみませんか。

●サブ展示図書(抜粋)

「僕の島は戦場だった」「沖縄地上戦」「広島原爆写真集」「長崎原爆写真集」「データで見る太平洋戦争」  
「兵隊さんに愛されたヒョウのハチ」「ドームがたり」

## ストーリーテリング講座のご案内

ストーリーテリングとは物語を覚え、本を使わずに語り聞かせる手法です。聞き手それぞれが想像するので世界観が広がります。申し込みが必要ですので坂本図書館までご連絡下さい。

講師：森尾靖子さん

(高知おはなしの会)

日時：令和4年8月20日(土) 13:30～

場所：宿毛文教センター 2階 会議室1

料金：無料

## 《中学生の職場体験学習》



片島中学校の生徒2名が職場体験学習に来てくれました。本の整理や貸出・返却作業などを熱心に取り組んでくれました。お客さまとのコミュニケーションなど、様々な体験をすることができました。この経験を活かし、自分の思う道へ進んでいかれることを願っています。

## 読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

### ブータン、世界でいちばん幸せな女の子

阿川 佐和子 著  
文藝春秋

中学時代に「ブータン」と、あだ名を付けられた女の子。同級生から忘れられていた彼女は、誰よりも明るい大人になっていた。世界一幸せな国と言われるブータン王国のように、自分が幸せになる決意をして過ごす彼女に出会った女性たち。1人1人違う目線で進んでいく、まるで同窓会のような物語。ぜひ、読んでみてはいかがでしょうか。

(児童)

### 海のがみのゆうびんや

ミシェル・クエヴァス 文  
エリン・E・ステッド 絵  
化学同人

海で迷子になった瓶に入った手紙。それを見つけて配達するのがゆうびんやの仕事。近くの人はもちろん、どんな遠くの人へも届けます。なぜならその手紙がどんなに古くても、悲しみがにじんでいても、受け取った人は心から喜んでくれるから。

「ぼくも手紙を受け取ってみたい。」そんなゆうびんやが、ある日海で拾い上げた手紙とは？

人知れず頑張っている人にエールを送るような優しい絵本。心に残る作品です。

(一般)

### おうちで作れる実験スイーツレシピ

s a c h i \_ h o m e m a d e 著  
翔泳社

ケーキやシュークリームが膨らむ理由を知っていますか？実はお菓子作りには「化学」が深く関係しています。

そのお菓子作りに隠れている原理を理解して作ると、実験や観察に繋がり楽しさも倍増！

お菓子作り初心者にも科学実験にも最適！！おいしくて作りやすい、夏休みの自由研究にぴったりの一冊です。

(児童)

### はじめてのこどもキッチン

鈴木 薫 著  
KADOKAWA

1日3回食べている「ごはん」。おいしいごはんが作れると、大人になってからも一生役に立ちます。

また料理をすることでたくさんの事を知り、生きる力にもなります。

夏休みに、親子で料理をはじめてみませんか？はじめて料理をする人にぴったりの本となっています。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

夏

松澤まり子

「毎日暑いね。」というのがあいさつ代わりにこの頃。夕暮れ時にはひぐらしの合唱が聞こえると、嬉しい。春になると、うぐいすの声を初めて聴くと嬉しいように。

朝、目が覚めると窓の外のセミの大きな鳴き声にうるさいなあ、今日も暑いのかなあ、やれやれ、と思う。でも。

セミも今、一生懸命に生きているのだなあ、頑張ってるんだから、と気を取り直してミルクティーを作るためのお湯を沸かす。わたしも頑張らなくちゃ。

店に巣を作っているつばめのヒナたちも二番子になり、親たちは忙しく飛び回り、洗濯物が一日でぱりっと乾く日が続くと思えば、台風などで雨風が強くなったり。夏真っ盛りである。

四季のある場所に生まれて良かった。暑かったり寒かったりするけれど、その季節の変わる微妙な変化をわたしたち日本人は感じている。そういえば吉田兼好は「折節の移り変るこそ、ものごとにあはれなれ」と書いた。（『徒然草』第一九段）「季節の変化することこそ、ものごとにしみじみとして趣のあるものだ」（私訳）これを読んだ時は高校生か大学生だったかもう忘れたが、その時は、ふうん、という感じだったが、今思うと、吉田兼好ってすごいなあと感じる。他の文章もそれはまた同感する箇所もあるが、あの時代に今も変わらない気持ちというものを書いていたという驚きにも似たものがある。ひとの気持ちというものは古の頃から変わらないものかもしれない。そう思うと古典を読むのが楽しくなる。

小学校高学年の頃だったか、夏休みに夏目漱石の『吾輩は猫である』を読んだ。読んだ、というだけで、猫が話す、その面白さだけで突き進んで読んだ、という感じだった。比喩やら難しい言葉やら訳が分からなかったが、とにかく読んだ覚えがある。あの頃、夏休みは長かった気がする。気のせいかもしれないけれど。今のように週休二日じゃなくて土曜も半ドン（午前中の意味）の授業があり給食なんかもなくお昼ご飯も自由に家に帰ったりしていた頃。わたしは家が小・中学校から遠かったのでお弁当や購買で買うパンやらだった。中学生の頃はお昼休みによく坂本図書館へ行き借りたり返したりで夢中になって読んだリンドグレーンやケストナーなどの本を抱えて学校へ帰ったりしたことを思い出す。あのワクワクして歩いた気持ちは30年以上経った今でも「わかる」。新しい本を読みたい。新しい世界を知りたい。連作であれば次作はどうなるんだろう、主人公はどう行動するのだろうか。『若草物語』の旧字体でシ

リーズがあり、楽しくて続編を数冊読んだことも思い出す。赤い絹のような美しい布の表紙で、旧字の難しい漢字がたくさんあり、学校へ行く前の朝などに早起きして読んだりしたっけ。今思うと信じられない。よく読んだね、と子供のわたしをほめてあげたい。（誰もほめてなどくれないし。笑。）昔のわたしを見習ってしなければいけないことはたくさんある……。掃除、本の整理……。やれやれ。パソコンのメールの整理もせないかん。その前にこの随筆を書かないと。笑。

先日、仕事でスタッフと車に乗り片島の信号機のところで青信号で左折しようとしていると歩いて横断歩道を渡ろうとしている小学校低学年くらいだろうか、夏らしいワンピースを着た一人の女の子がいて、横断歩道を渡るのを車を止めて見送ると、渡りきった女の子はわたしたちに向かってぺこり、とお礼をした。こちらも笑いながら手を振り（マスク越しなのでできるだけ笑って）、スタッフと、すごいねえ、親御さんがしっかりしている方なんだろうね、などと話した。あとで思ったのだが歩行者優先なのは当たり前なのだが、優先をせずに通ってしまう車も多い。うちの前にも横断歩道があるが、歩いて渡っていても車が突っ込んできたりするので怖かったりする。当たり前であることをしない大人が多すぎる。たぶん、おじぎをした女の子も同じような経験を積んで、だからおじぎをしてくれたのかもしれない。

それにしても最近、本を読んでいない。昔の気持ちを思い出して、寝る前などに本を広げよう。最近の夏の夜には、そろそろ草むらで鳴く虫たちの声が聞こえてきた。季節は秋へと向かっている。

「ひとり、灯のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる。」

（『徒然草』第一三段）



夏の夕暮

## ～新着図書のご紹介～

### 一般図書



- |   |                     |            |
|---|---------------------|------------|
| 0 | 「47都道府県・博物館百科」      | 可児光生       |
| 1 | 「80歳の壁」             | 和田秀樹       |
| 2 | 「事典太平洋戦争と子どもたち」     | 浅井春夫       |
| 2 | 「中学生から知りたいウクライナのこと」 | 小山哲        |
| 3 | 「ざっくりわかる簿記の本」       | 宇田川敏正      |
| 3 | 「算数文章題が解けない子どもたち」   | 今井むつみ      |
| 4 | 「土の中の生き物たちのはなし」     | 島野智之       |
| 4 | 「徳洲会コロナと闘った800日」    | 笹井恵里子      |
| 5 | 「DMVパーフェクトガイド」      | グラフィック社編集部 |
| 5 | 「メタバース見るだけノート」      | 岡嶋裕史       |
| 5 | 「船の仕事海の仕事」          | 伊藤玄二郎      |
| 6 | 「豊かな暮らしと“小さな農業”」    | 望月健        |
| 7 | 「知識ゼロからの日本刀入門」      | 土子民夫       |
| 7 | 「知識ゼロからの歌舞伎入門」      | 松本幸四郎      |
| 8 | 「漢字の使い分け図鑑」         | 円満字二郎      |
| 9 | 「絵巻で読む方丈記」          | 鴨長明        |
| 9 | 「プリズム」              | ソン・ウォンピョン  |
| 9 | 「やっと訪れた春に」          | 青山文平       |
| 9 | 「禁漁区」               | 石田衣良       |
| 9 | 「蹴れ、彦五郎」            | 今村翔吾       |
| 9 | 「筆のみが知る」            | 近藤史恵       |
| 9 | 「嫌われ者の矜持」           | 新堂冬樹       |
| 9 | 「掬えば手には」            | 瀬尾まいこ      |
| 9 | 「鷹の系譜」              | 堂場瞬一       |

※左側の数字は図書の分類を表しています。

0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学  
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

### 児童図書



- 『「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと』 指田和  
「これならわかる！SDGsのターゲット169徹底解説」 稲葉茂勝
- 『池上彰と学ぶ「お金」と「社会」の学校』 池上彰  
「きみもできるか！？天才科学者からの挑戦状」  
マイク・バーフィールド  
「世界でいちばん美しいこども元素ずかん」  
セオドア・グレイ
- 「鳥は恐竜だった」 鈴木まもる  
「空と大地に出会う夏」 濱野京子  
「ふしぎな図書館とアラビアンナイト」 廣嶋玲子  
「トラからぬすんだ物語」 テェ・ケラー

### 絵本



- 「ディズニー読み聞かせえほん」 仲田安津子  
「こうもり」 アヤ井アキコ  
「給食室のいちにち」 大塚菜生  
「はだしであるく」 村中李衣  
「ねずみくんはカメラマン」 なかえよしを  
「かきごおり」 石津ちひろ  
「ちいさいごみしゅうしゅうしゃぱっくんはどこだ？」 薫くみこ  
「海のがみのゆうびんや」 ミシェル・クエヴァス  
「ひでよーし」 丸山誠司

★このほかにもたくさんの図書が入っております。

図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

### 8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス [tosyo@city.sukumo.lg.jp](mailto:tosyo@city.sukumo.lg.jp)

は休館日



【図書館HP】

